

## 令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

「小学校 第6学年 「家庭科（東京書籍）」

39時間（70%）

週	指導事項	題材名	小題材名	時間数	留意点
1	A(2)ア	9 見つめてみよう生活時間	①生活時間を見つめてみよう	0.5	・生活時間調べは、家庭学習とする。
2	A(2)アイ		②生活時間を工夫しよう	1	
	A(2)イ		③生活時間を有効に使おう	0.5	
	B(1)ア	10 朝食から健康な1日の生活を	①朝食の役割を考えよう	1	・いためる調理を扱う。 ・いためる調理の学習は、動画等を活用して指導する。
3	B(2)ア(7) (4)(7)イ		②いためる調理で朝食のおかずを作ろう	3	
4	B(3)ア(7) (4)				
5	B(2)イ	③朝食から健康な生活を始めよう	2	・調理実習は家庭で行い、活動記録をまとめるなどの学習活動を取り入れる。	
6	B(6)ア(7)	11 夏をすずしくさわやかに  (冬を明るく暖かく)	①夏(冬)の生活を見つめよう	0.5	・「冬を明るく暖かく」の学習と一緒に扱う。
7	B(4)ア(7) (4)		②すずしくさわやかな(あたたかい)住まい方や着方をしよう	6	
8	B(6)ア(7)				
9	B(4)イ B(6)イ	③夏(冬)の生活を工夫しよう	0.5		
	B(5)ア(7) (4)	12 思いを形にして生活を豊かに	①目的に合った形や大きさ、ぬい方を考えよう	0.5	・ゆとりや縫いしろの必要性を理解させる。
10	B(5)ア(7) (4)イ		②計画を立てて、工夫して作ろう	8	
11					
12				・製作物は、袋を扱う。時間内で製作できるものを選択する。	
13	B(5)イ	③衣生活を楽しく豊かにしよう	0.5	・グループでの学習(実習)は行わないようにする。	
	B(3)ア(7)	13 まかせてね 今日の食事	①献立の立て方を考えよう	1	・1食分の献立を扱う。
14	B(3)ア(7) (4)(7)イ C(1)ア(7) (4)イ C(2)アイ		②1食分の献立を立てて、調理しよう	6	
15					
16				・調理の学習は、動画等を活用して指導する。	
17	B(1)イ B(3)イ C(2)イ	③楽しく食事をするために計画を立てよう	1	・調理実習は家庭で行い、活動記録をまとめるなどの学習活動を取り入れる。	
	B(6)ア(7)	14 冬を明るく暖かく	①冬の生活を見つめよう	0	・「夏をすずしくさわやかに」と一緒に扱う。
	B(4)ア(7) (4)		②明るく暖かい着方や住まい方をしよう	0	
	B(6)ア(7)				
	B(4)イ B(6)イ	③冬の生活を工夫しよう	0		

18	A(3)ア(イ)	15 あなたは家庭や地域の宝物	①家族や地域の一員として	1	
	A(3)ア(イ)イ		②私から地域につなげよう！広げよう！	1	
19	A(3)イ		③もっとかがやくこれからの私たち	1	
20	A(1)ア		2年間のまとめ	1	
21	A(4)ア		生活を変えるチャンス！	3	

### ※時間数の精選方法（例）

- 知識・技能を活用して「思考力・判断力・表現力等」を身に付けさせる場面を精選する。
- ・指導計画において、複数の場面で指導事項のイが位置付けられている場合は精選することで時数削減に繋がります。
  - ・問題解決的な学習の過程で行う題材を各学年で絞り、確実に行うようにします。

- 小題材をまとめて指導したり、内容の関連を図ったりする。
- ・例えば、B(4)衣生活「季節や状況に応じた日常着の快適な着方」とB(6)住生活「季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方」は、夏・冬の2回学習が設定されているため、関連付けて指導することで時数の削減に繋がります。

- 実験や実習の内容を見直したり、映像資料や家庭での実践に換えたりする。
- ・例えば手縫いの技能など、身に付けさせる事項や袋物の製作など指定された題材を指導します。また、製作する小物などは限られた時間内にできあがるものを選択します。
  - ・調理実習は学校では行わず、写真や映像資料を活用して調理の知識及び技能を理解させ、家庭で実践するなどします。調理技能の習得について、5年生の場合は次年度の学習で補っていくことも考えられます。

- 「A 家族・家庭生活についての課題と実践」は、2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修させる。
- ・5学年で既に履修している場合には、6学年で履修しないことも可能です。また、今年度の5学年は履修せず、次年度に履修することができます。
  - ・5・6年生共に、今年度履修する場合には、「課題設定」、「計画」、「評価・改善」を学校で行い、「実践」は長期休み等を活用して家庭（可能であれば地域も含む）で行います。さらに時数に限りがある場合、「計画」を家庭で立てさせたり、発表を紙面で行ったりすることも考えられます。

\* 令和2年5月1日付文科省「新型コロナウイルス感染症対策の現状を踏まえた学校教育活動活動に関する提言」において、リスクの高い学習活動を行わないと示されており、その例として「家庭科における調理などの実習」が挙げられています。

\* 実習等では、できるだけ個人の教材教具を使用し、児童同士の貸し借りはしないようにします。ミシン等の器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いをするとともに、用具に番号を付けて使用する児童を限定するなどの配慮を行います。